

2024年度 第72回 全校修養会

地球は本当に大丈夫か？！

今年の遺愛全校修養会は、恵泉女学園大学の桃井和馬先生をお迎えして、10月29・30日（火・水）と遺愛アリーナで行われました。

桃井先生は2015年度の修養会に来て下さり、今回は2度目です。10年前は『平和の知恵』というテーマで修養会が行われ、紛争や戦争の背景には、人間には「無限に拡大する人間の欲望」があり、それをのりこえるには、私達自身にも「無限に拡大する欲望」があることをよく自覚してほしい。時に暴走する知識の限界をわきまえ、「謙虚になること、本当の知恵を身につけること、人間を超えた存在に目を向けること」などを心に留めて、自分の頭で考え、行動してほしいというメッセージをいただきました。

今年『与えられた使命』というテーマで3回の講演をして下さいました。講演の1回目・2回目はヨーロッパのキリスト教の戦いの歴史を紐解き、ウクライナ戦争、パレスチナ紛争の原因を分析し、限りある資源獲得への欲望にあると看破し、今後、日本を含めて紛争が世界へ波及する危機を指摘していました。

3回目は2019年に国連の温暖化対策サミットの中で、スウェーデン環境活動家のグレタ・トゥーンベリ（当時16歳）さんが地球温暖化に対して行った涙と怒りの訴えを、ビデオで紹介して下さいました。産業革命前に比べると2023年世界平均気温はおよそ1.45℃上昇し、観測史上最高記録しましたが、2024年度はさらに1.48℃に上昇する可能性があるそうです。急激な平均気温の上昇が、函館だけでなく日本全国の春から夏にかけての異常高温とつながっていると実感します。1.50℃を超えともう引き返すことは不可能、さらに一気に気温上昇する可能性があるそうです。11月の中旬にWMO（世界気象機関）が今年の世界平均気温を発表します。とても気になります。



アメリカの生活レベルで全世界の人々が暮らすには資源的に地球が5個必要。日本の生活レベルでは2.8個、世界の平均レベルでも1.7個必要だそうです。もう地球は環境的に限界がきており、本当に深刻です。「戦争をやっている場合ではない！」と桃井先生は強く訴えていました。でも一方では、資源的には20世紀は石油の奪い合い、21世紀のこれからは水の奪い合いによる紛争が始まる可能性が高いとも言っていました。



桃井和馬先生

桃井さんの3回目の講演を聴いていて、生徒の皆さんも、私自身もこれからどうしたらよいのか途方にくれてしまうような気持ちに一瞬なりかけました。そこで桃井さんは、宗教改革者マルティン・ルターの「明日、世界が終わろうとも、今日私はリンゴの木を植える」という言葉を紹介し、地球環境を守り、人間を含めて、生き物が存続するために、身近でやれることを毎日し続けていくことが大切だと強調していました。それが私達の使命であり、最後に、人間を超えた神様の導きを信じて歩んでいきましょうという言葉で結んでいました。

2024年11月1日(金)